

グローバル
眼の

中国は2015年秋の第13次5カ年計画(16-20年)の発表とともに、五つの新たな発展方針として「創新(イノベーション)・協調・緑色(エコロジー)・開放・共享(シェア)」を打ち出した。経済発展の量から質へのモデル転換が求められる中、イノベーション主導での発展へ大きく舵

を切ろうとしている。とりわけ、既に最先端を走る情報通信産業分野のデジタルイノベーションに注力する姿勢をはっきりさせている。17年3月に行われた全国人民代表大会(全人代)では、「数字经济へのモデル転換が求められる中、イノベーション主導での発展へ大きく舵を切ろうとしている。とりわけ、既に最先端を走る情報通信産業分野のデジタルイノベーションに注力する姿勢をはっきりさせている。」と強調された。世界的にデジタルエコノミーを測る基準が統一されていないものの、中国政府系シンクタンクである情報通信研究院が情報通信産業および関連サービスに関する産出をベースに試算したデジタルエコノミーの規模は、02年から拡大

デジタルシフト進む中国



し続けており、18年には国内総生産(GDP)に占めるデジタルエコノミーの割合が34・8%に達しているという。

カギは「ABCD5G」

デジタルエコノミーの規模拡大とともに、中国は経済社会のデジタルシフトを積極的に推し進め、関連産業の育成と市場規模の拡大に力を入れている。中国は「十四五(2021-2025年)国家情報化計画」で、次世代情報テクノロジーを代表する人工知能(AI)、ブロックチェーン(Blockchain)、クラウドデータ(Cloud)、ビッグデータ(Data)と第5世代移動通信システム(5G)がデジタル社会の拡大させる目標に掲げた。全国的なAIブームが巻き起こり、その中から実力のあるベンチャー

企業が生まれ、リーディングカンパニーへと成長している。また、19年10月に習近平国家主席は「アテクノロジーとしてブ

ロックチェーンの重要性と社会実装の必要性を強調した。16年に打ち出された「十三五(2016-2020年)国家情報化計画」で、その目標に向けデジタルシフトが有効な手段であり、デジタル技術の恩恵をより多くの人が受けられる社会への変貌の生活を変えたが、5Gに期待が高まっている。



伊藤忠総研
産業調査センター

趙瑋琳